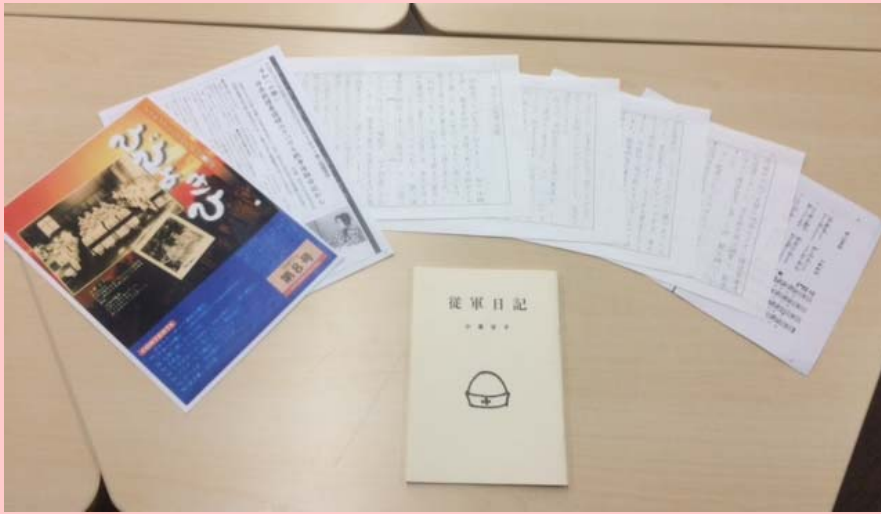


東都医療大学図書館通信



「従軍看護婦」関連資料をご寄贈いただきました。

～ 深谷市在住・小暮吉子さん手記 ～



↑ 手前(中央):小暮吉子著『従軍日記』(博字堂)、奥:講演会資料・原稿など

小暮吉子さん(深谷市在住)のご家族より、貴重な資料をご寄贈いただきました。小暮さんご本人による、従軍看護婦の手記です。小暮さんは埼玉県立保健婦養成所に在学中の昭和18年8月22日、第475救護班要員として戦時召集を受け、日本赤十字社埼玉支部に集合しました。配属先は南海の地、ニューブリテン島パウル。召集を受けてから、昭和20年12月5日に召集解除になるまで2年4ヶ月にわたり従軍看護婦として従事した様子が『従軍日記』(博字堂)や講演会の資料などに記されています。この手記に綴られている出来事は、小暮さんが学生の皆さんと同じくらいの年頃で体験されたことです。この機会に戦争について考えてみてはいかがでしょうか。

『従軍日記』や講演会資料より、
現地での様子を紹介させていただきます。

病院とは名ばかりで粗末なバラックとテントが並んでいて、ベッドも狭く寝返りもできない有様。そんな所に二〇〇人もの患者がいました。

現地へ来るなり一番困ったのが水でした。井戸がなく、すべて雨水でまかなうのです。日に一度は激しいスコールがあり、それをためて使うのですが、とても間に合いません。洗濯などは夜のスコールの時飛び起きてやりましたし、入浴は月に一度きりでした。

もうひとつ苦しんだのが悪疫で、 Dengue 熱、A型パラチフス、アメーバ赤痢、マラリアなどみなどれかにかかりました。看護婦からも一人犠牲者が出ました。

前線からは毎日のように負傷者が運び込まれましたが、コロンバンのジャングルをさまよっていて救出された十人が潜水艦で送られてきました。髪も髭もボロボロ、顔は青ぶくれにふくれ、息も絶え絶え、そして消え入るような声で「水を…、水をください…」と訴えていました。

十月に入ると風夜を問わず空襲が烈しくなり、その度に全身火傷や体の一部が吹き飛んだ患者が運ばれて来ます。ひっきりなしの空襲で危なくて宿舎へ帰れず、防空壕に泊まることごとくが多くなりました。煙を立てられないので、乾パンばかり。もっと困ったのは、注射器の消毒がうまくいかなかった。

(ついでに図書館へも来たのだ)

11月までに納品された図書・雑誌・視聴覚資料

《図書》

『障害者総合支援六法 27年版』『厚生労働白書 平成27年版』『看護白書 平成27年版』
『産業保健ハンドブック改訂13版』『有斐閣判例六法 2016年版』
『図説国民衛生の動向 2015-2016』『レビューブック公衆衛生』
『公務員試験 地方上級教養試験問題集 2017』
『公務員試験 市役所上・中級採用試験問題集 2017』

※ 前期購入図書につきましては、すべて書架へ配架され、ご利用いただけるようになりました。
実習や課題、日々の学習にぜひお役立てください。

《雑誌ほか》 ※下記 OPAC をご参照ください。

<http://www.lib-finder2.net/tohto/servlet/New?findtype=1>



廣川書店による出張販売のご案内

看護・医療系図書が10%OFFで購入できます!

展示販売は4月に再開予定です。

再開までの間、本を購入したい場合は下記へ直接連絡して下さい。
注文の際、必ず大学名・氏名を伝えて下さい。
また、実店舗もあります。学生証提示で割引購入可能です。

住所:群馬県高崎市宮元町 238

TEL:027-322-4804

Mail:takasaki@hirokawa-books.co.jp

平日:9:00~19:00 土曜日:9:30~18:00

『ブッタとシッタカブッタ』

精神看護学領域 辻脇邦彦



『ブッタとシッタカブッタ1 こころはボクにある』
(新装版)
小泉吉宏 著 KADOKAWA メディアファクトリー 刊

皆さん、自分のこころのジタバタに悩んでいませんか？今回は、堅苦しい本の話ではなく、やわらかくて、こころのジタバタの根源に気づくために少しだけ手を貸してくれるマンガ本についてご紹介したいと思います。

この本の第1巻が発売されたのは1993年、当時の帯には「ギターは張りすぎると切れ、ゆるめすぎると変な音になる。心も無理やり運転しようとしても苦しいし、ほったらかしでもろくな事にはならない…。自分を運転するあなたに贈る、心の運転マニュアル本。」とあり、精神科のクリニックには必ずある、下手な医者よりも「ブッタとシッタカブッタ」とまで言われた名本です。現在も再販が繰り返されているので、様々な方に愛されているようですね。

「ブッタとシッタカブッタ」はかわいいブタが主人公。そしてもう一人、いつの間にかあなた自身が主人公に。「僕たちはどうして悩むのかな」「恋ってどうして苦しい時があるのかな」「人に認められないと、どうして苦しい時があるのかな」「寂しい気持ちってどこから来るのかな」と。そんな毎日誰もが体験するような、こころのジタバタ。「どうして？」の中にある本当の自分を発見していきます。読むたびに何かが見えてきます。何回読んでもそのたびに新しい発見があります。このシリーズは10冊ほどありますが、最初の1巻をとりあえず手に取ってパラパラと立ち読み、古書店でも構いません、絶対はまります。

私がこの本と出会ったのは1999年頃、第3巻が発売された当時でした。ある日患者さんが「辻脇さんこんな本があるんだよ、どう思う？」と何気に見せてくれたように思います。自分自身が色々と苦悩していた時期だったせいもあり、数ページを流して読んだ私はその日のうちに本屋に駆け込み、この本を手に入れたのでした。

内容は何のことはない4コマ漫画を中心としたコミックエッセイですが、主人公たちのネーミングも絶妙です。ブッタとシッタカブッタ、カイカブッタ、イイコブッタが織りなす様々な人生のイロハです。「ボクの人生、うまくいくかなあ…」と、悩めるブタの姿を見て、笑いながらあなたは、人生がもっと楽に感じられるものの見方を発見することでしょう。「こんなに、こんなに愛しているのに…」と、悩めるブタがボヤいています。悩めるブタのジタバタする姿を見て、笑いながら、あなたは幸福や不幸、悩みの正体を発見することでしょう。「こころ」をわかりやすく見せ、語ってくれる貴重な本です。様々な場面で、自分の人生に重ねて考えるヒントがもらえます。笑いながら、泣きながら、そしてまた悩みかえしながら、新たな自分の「こころ」を、そしてあなた自身の人生の見方、考え方、そして歩み方を再発見してみてください。



『君がここにいるということ』

～ 小児科医と子どもたちの18の物語 ～

—— この本の最初に、私は小児科医を「やめたいと思ったことは一度もなかった」と書いた。

正直に言うと、一度だけ小児科医をやめたいと思ったことがある。

『君がここにいるということ』 p.160 あとがきより ——

『君がここにいるということ』(草思社)には、著者・緒方高司さんが25年間の小児科医人生の中で出会った患者や家族についての出来事が綴られています。本書を読み進めると、子どもたちが小さな体で懸命に病魔と闘う姿に胸を打たれ、また、パパとママに遺した優しく温かいメッセージに涙し、普通の生活では気づかないような大切なことを教えてくれます。健康で当たり前で過ごせる毎日が、本当は当たり前ではなく、感謝するべきことなのだと思われられます。緒方さんは小児科医になって初めて患者さんを亡くしたとき、小児科医をやめたいと思ったそうです。ですが、その患者さんのご両親からかけていただいた言葉が心の支えとなり、現在も多くの子どもたちの生命と向き合い、ご活躍されています。

